

「地図豆」の地図を広げて街歩き

## 107-1 とうきょう湧水めぐり7 ちょっと大森（約2.5km）

### 【街歩きの概要】

国分寺崖線から離れて、武蔵野台地のハケなどに散在する湧水を連ねてどこまでも歩く。



山王花清水公園

### 【道順】

JR 大森駅→暗坂→山王花清水公園（湧水）→大森天祖神社→JR 大森駅

### ルートマップ



### 地図豆知識：関東平野の変遷と河岸段丘（再掲）

地質年代の関東平野の変遷を大急ぎでたどってみると、約12～13万年前の海進最盛期、関東平野は全面的に海であったが、（下末吉海進）、その後、海面は周期的に上昇と低下を繰り返し、この時期に関東平野の基盤となる武蔵野台地や相模原台地が形づくられた（約10～6万年前）。

その後、海面が約100m以上も低下して東京湾が陸となった（約2万年前）が、再び海面が上昇し、入江は関東平野の奥深くにまで進んだ（約6000年前）。そして、歴史時代に入ると、土砂の流入によって河口には三角洲が発達し、現在のような関東平野が作られた。

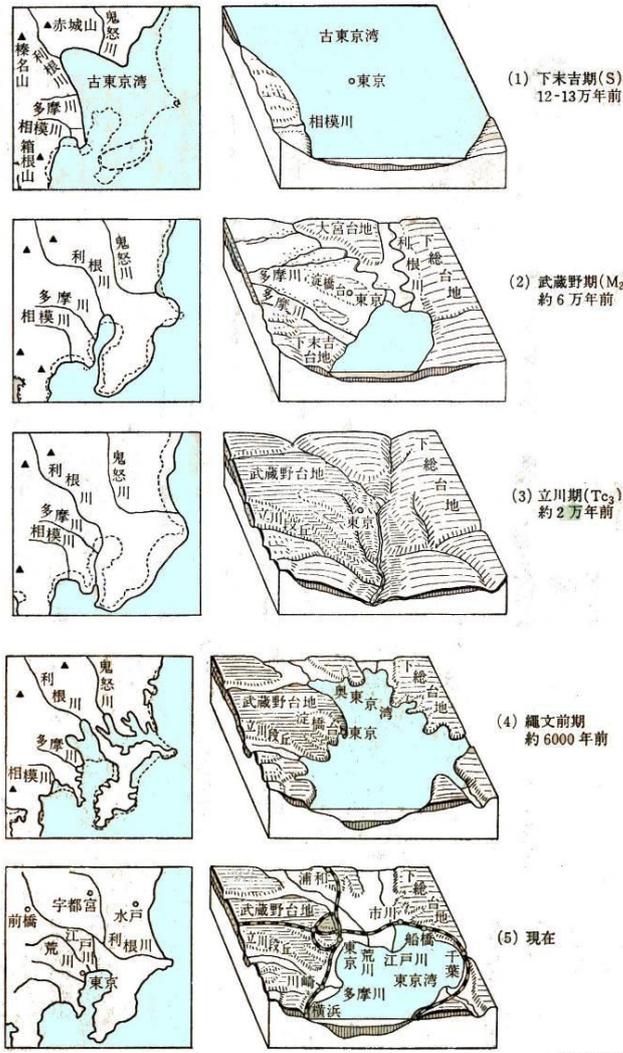
こうした地形変遷過程の一時期、河床の高度が安定したのちに地盤の隆起あるいは海面の低下が起き、その後河川流水による浸食によって河床が大きく低下した結果、河川氾濫原の周囲に形成されるのが河岸（河成）段丘である。

同じような段丘面と段丘崖からなる海岸（海成）段丘は、やはり地盤の隆起あるいは海面の低下に関連して海岸線に沿って形成された階段状の地形である。この場合、段丘面はもとの海底面、段丘崖は海流によって浸食された海蝕崖である。

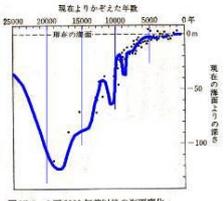
両者を見分けるには、現河川や海岸周辺といった存在場所だけではなく、むしろ段丘に近くに存在する微地形や堆積物などを調査して行なう必要がある。河岸段丘も海岸段丘も日本各地で多く見られる。



かつてあった、泉の地図記号



図Ⅷ-5 関東平野の変遷(貝塚, 1961を改訂)  
 左列の三角は活動中の火山。右列の断面にみえる黒い層は関東ローム層の上部(立川ロームと武蔵野ローム)、点は河岸段丘砂礫層、縦線は主に海成層(成田層群と沖積層)。



図Ⅷ-1 2万5000年前以後の海面変化。

### 関東平野の変遷

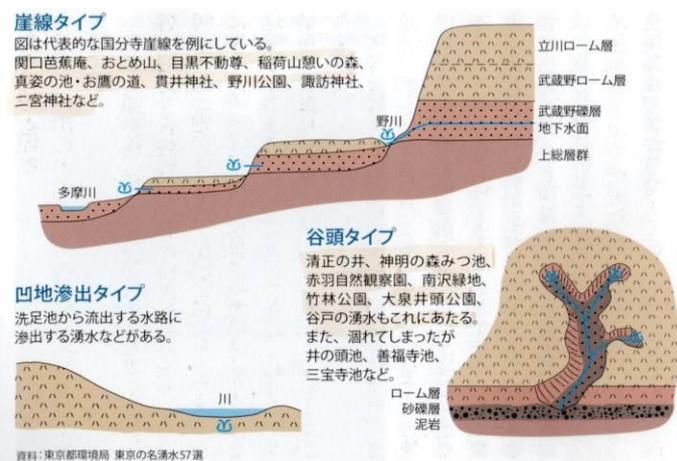
#### 地図豆知識：湧水の種類（再掲）

湧水は以下のようなタイプに分類される。それぞれの湧水がどのタイプのものか観察してみるといい。

崖線タイプ：川によって浸食された台地の段丘崖や断層面に露出した砂礫層から湧くもの。砂礫層の下部は水を透しにくい粘土層や泥岩になっていることが多い。湧水を供給するかん養域はごく狭い範囲である。

谷頭タイプ：台地上の馬蹄型や凹地形などをした谷頭（台地面の谷の奥）の地形的に水を含む層が露出したところから湧くもの。地下水が湧水する力で谷頭地形が形成されることが多く、かん養域はごく広い範囲である。

凹地しみだしタイプ：川床や凹地に地下水や伏流水が圧力でしみだしてできる湧水。かん養域は地下水や伏流水に関連した広い範囲である。



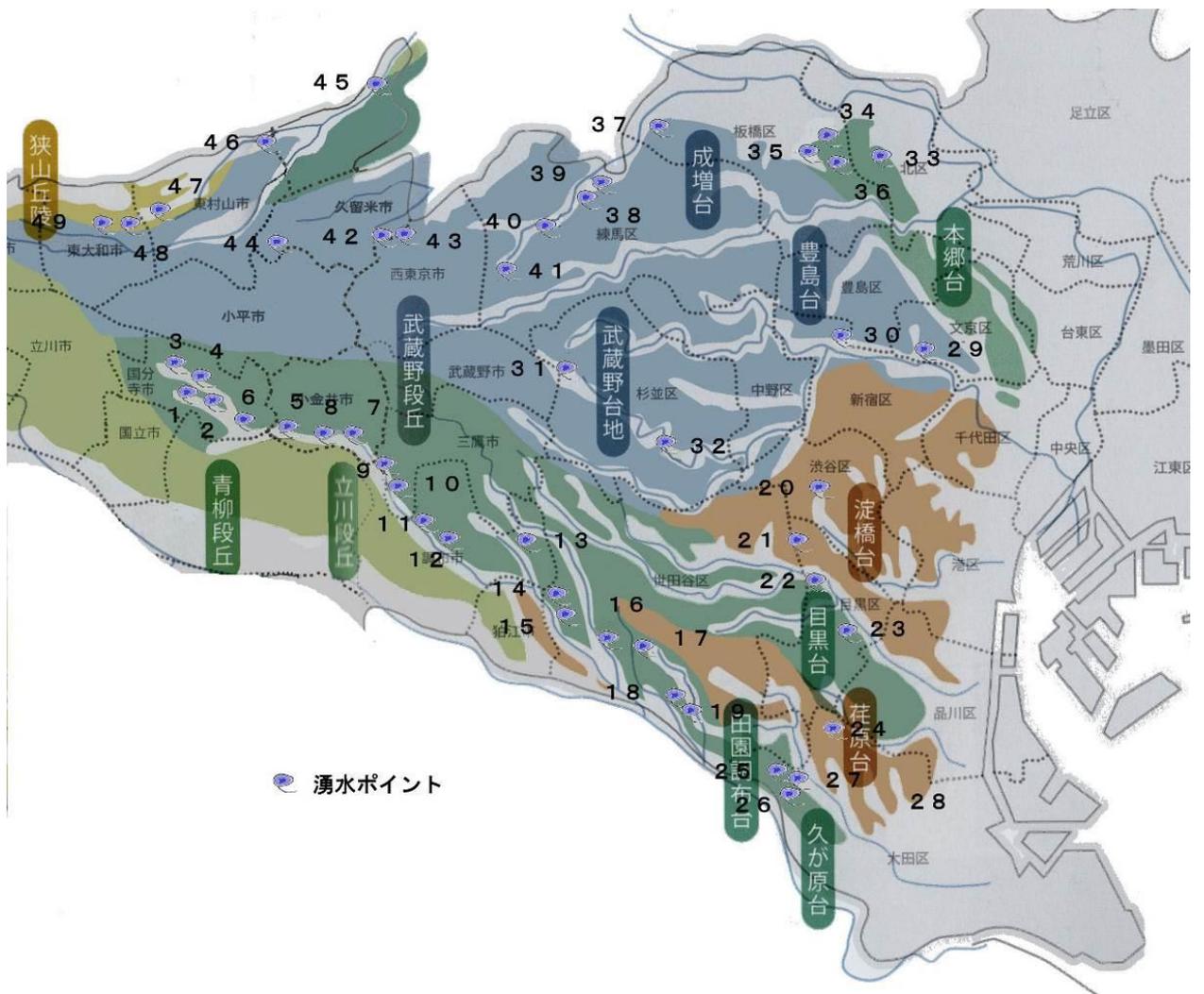
湧水の分類（東京都環境局「東京の名水57泉」から）

### 地図豆知識：武蔵野台地の湧水

よく知られている武蔵野台地湧水には以下がある。

1. お鷹の道・真姿の池
2. 殿ヶ谷庭園
3. 姿見の池
4. 日立中央研究所
5. 貫井神社
6. 新次郎池
7. ハケの森美術館
8. 滄浪庭園
9. 野川公園
10. ほたるの里三鷹村
11. 深大寺
12. 都立農業高校神代農場
13. 実篤公園
14. 神明の森みつ池
15. 成城三丁目緑地

16. 大蔵三丁目公園
17. 岡本静嘉堂緑地
18. 五島美術館
19. 等々力溪谷・等々力不動尊
20. 清正の井
21. 東大駒場三郎池
22. 東山貝塚公園
23. 目黒不動尊
24. 清水窪弁財天
25. 田園調布せせらぎ公園
26. 六郷用水
27. 東調布公園
28. 山王清水公園
29. 関口芭蕉庵
30. おとめ山公園
31. 善福寺川 原寺分橋下流
32. 善福寺川 御供米橋下流
33. 赤羽自然観察公園
34. 小豆沢公園
35. 志村清水坂緑地
36. 見次公園
37. 不動の滝
38. 清水山憩いの森
39. 稻荷山憩いの森
40. 八の釜憩いの森
41. 大泉井頭公園
42. 南沢緑地
43. 竹林公園
44. 黒目川天神社
45. 金山調節池
46. 秋津公園
47. 多摩湖緑地
48. ニツ池公園
49. 湖畔集会所裏



\*\*\*+ オフィス 地図豆 Yamaoka mitsuharu +\*\*\*++